

だったんじん

「韃靼人の踊り」の名古屋初演はいつ？

ボロディン作曲「韃靼人の踊り」が日本で初めて演奏されたのは、1925年（大正14年）4月29日である。クラシック音楽の日本での初演日を特定するのは難しいが、「韃靼人の踊り」がオーケストラによって初演されたがこの日であるのは間違いない。演奏したのは、中国東北のハルビンから来日したロシア人演奏家33名に日本人の演奏家38名が加わった混成オーケストラであった。

ハルビンは、極東に進出したロシアが建設した都市で、欧風の街並みをもち、当時はロシア人の演奏家たちによって連日のように音楽会やオペラが上演されていた。ユダヤ人迫害やロシア革命の難を逃れて、はるばるモスクワやサンクトペテルブルクからやってきた一流の演奏家も多くいて、ハルビンのオーケストラの演奏水準は高かった。まだ低レベルだった日本のオーケストラの水準を何とか高めようと努力していた山田耕作（後に耕筈と改名）は、このハルビンの音楽家たちを日本に招き、日本人の演奏家と合同で演奏させることを企画し、実現したのが日露交歓交響管弦楽演奏会であった。このあたりの事情は、岩野裕一著『王道楽土の交響楽』に詳しい。

（来日した演奏家のうち、次席コンサートマスターのヨゼフ＝ケーニヒはチェコで生まれ、プラハ音楽院でドヴォルザークに音楽理論を学び、その後、サンクトペテルブルクのマリンスキー劇場交響楽団のコンサートマスターを20年間務めた人である。ヨゼフの父親は高名なオーボエ奏者で、本日演奏されるドヴォルザークの「新世界より」第2楽章の中の有名な旋律（家路）は彼を偲んで作曲されたという話がある。）

日露交歓交響管弦楽演奏会は、4月26日午後7時から東京銀座の歌舞伎座で、近衛秀麿の指揮、ベートーベン交響曲第5番「運命」の演奏で始まった。そして4日間連続開催され、4日目の最後に演奏されたのがボロディンの「韃靼人の踊り」だった。その後、楽団は、名古屋、京都、神戸、大阪と巡回し、再び東京で追加の演奏会を行い、ロシア人のメンバーはハルビンへと戻っていった。

演奏会は名古屋でも開かれた。5月2日・3日の2日間、会場は御園座だった。御園座は、昭和5年に鶴舞公園に名古屋市公会堂ができるまで名古屋随一の劇場で、寄席から歌劇まで様々なジャンルの芸能・芸術の舞台であった。

さて、名古屋公演の曲目であるが、東京公演直前に印刷された『日露交歓交響管弦楽演奏会曲目解説』に日本で演奏される予定の全曲目と演奏場所が載っており、それに基づけば次のようになる。

5月2日 チヤイコフスキー作：交響楽第六番「悲愴」

リスト作：交響楽詩第三番「レ・プレリュード」
マーラー作・近衛秀麿編：第一交響楽第三章
シトラウス作：歌劇「バラの旗手」のワルツ
ワーグナー作：歌劇「ニュールンベルクの名歌手」

5月3日 カリーニコフ作：交響楽第一番
リヒアルト・シトラウス作：楽劇「サロメ」の音楽
ワーグナー作：浪漫的歌劇「さまよえる和蘭人」の序楽
チャイコフスキー作：組曲「胡桃割り」
ムースルグスキー作：幻想曲「裸山の夜」
ボロディン作：露西亜歌劇「イゴール公」

『解説』によれば、最後の「イゴール公」は、序楽、韃靼等の行進曲、ホロヴツイの舞踏、の3曲からなる。ホロヴツイの舞踏というのが「韃靼人の踊り」の原題であるから、「韃靼人の踊り」の名古屋初演は、大正14年5月3日ということになる。しかし、事実はそうでなかったのかもしれない。というのは、中日新聞の前身の一つ「新愛知」の5月4日と6日の朝刊に演奏会の鑑賞記事が載っているのだが、記事に出てくる曲目が上記のものとまるで違っているからだ。

記事から推測できる演目は、5月2日がベートーベンの交響曲第7番、リヒャルト＝シュトラウスの「薔薇の騎士」、ビゼーの「アルルの女」組曲第2番、ワーグナーの「マイスタージンガー」前奏曲であり、5月3日がリムスキー＝コルサコフの「シエラザード」、山田耕作作曲の「野人創造」と「明治頌歌」である。しかも、記事によれば、名古屋にやってきたのはほとんどロシア人のみで、40人弱の小編成のオーケストラで演奏したようだ。

当初の予定と異なる曲目が演奏されたのは、東京公演での客席の反応を見ての変更だったかもしれないし、編成の都合だったかもしれない（シエラザードは抜粋の可能性がある）。1日目の演目は、新聞記事から推察される曲がすべてであったろう。しかし翌日は、演奏時間を考えると、あと2、3曲が演奏された可能性がある。その中に「イゴール公」つまり「韃靼人の踊り」が入っていた可能性は捨てきれない。

日露交歓交響管弦楽演奏会は、一般の日本人が初めて本格的なオーケストラのサウンドを聴いた演奏会であった。名古屋市民もその幸運に浴した。しかも、東京と違ってほぼロシア人のみで演奏され、迫力は劣るが音楽の質は高かったであろう。しかし、「韃靼人の踊り」が名古屋で演奏されたかどうかは、今のところ不明である。

[\(名古屋大学交響楽団第109回定期演奏会パンフレット\)](#)